

第74回佐賀県美術展覧会

写真

書

工芸

日本画

デザイン

彫刻

洋画

会期

11/16



11/24

9時30分～18時
(最終日は16時まで)

観覧料 無料

主催 佐賀県美術展覧会実行委員会 (佐賀県・佐賀美術協会・佐賀県陶芸協会・佐賀県書作家協会・佐賀県写真協会・佐賀県高等学校文化連盟・佐賀県立博物館美術館・(公財)佐賀県芸術文化協会)

後援 佐賀県議会・佐賀県教育委員会・佐賀市・唐津市・鳥栖市・多久市・伊万里市・武雄市・鹿島市・小城市・嬉野市・神埼市

NHK 佐賀放送局・NBC ラジオ・サガテレビ・朝日新聞社・佐賀新聞社・西日本新聞社・毎日新聞社・読売新聞西部本社・佐賀県造形教育研究会・佐賀県商工会議所連合会・(一財)佐賀銀行文化財団

問合せ (公財)佐賀県芸術文化協会内 佐賀県美術展覧会実行委員会事務局 0952-26-0815

デザイン/近藤 夏海(有田工業高等学校)

SAGA
2024
国スポ・全履スポ
文化プログラム

第74回 佐賀県美術展覧会

展 示 目 録

－ 目 次 －

御挨拶	1
知事賞作品	2
審査員及び審査評	4
日本画・洋画	12
彫刻.....	14
工芸.....	15
書.....	16
写真.....	18
デザイン.....	21

第74回佐賀県美術展覧会 出品状況及び入賞・入選作品数

	日本画	洋画	彫刻	工芸	書	写真	デザイン	計
出品数	28	132	16	78	128	211	198	791
入賞数	5	10	4	11	11	13	15	69
入選数	14	50	7	46	54	75	58	304
展示点数	19	60	11	57	65	88	73	373

御 挨拶

佐賀県美術展覧会の歴史は、昭和26(1951)年に始まり、今年で74回目を迎えます。第1回目の県展は、日本画、洋画、彫塑、工芸、書、写真の6部門で始まり、現在の7部門、デザインにあたる「宣伝美術」が、第12回県展から追加されました。その後、第27回県展からは「グラフィックデザイン部門」と名前を変え、さらに第29回大会から、現在のような「デザイン部門」となって続いています。

また、部門だけではなく、真に県民の皆様に愛される県展のあり方等について、多くの方々との意見交換を重ね、県展大賞の新設や、高校生の出品に関しては高等学校総合文化祭の出品作品も認めるなど、さまざまな改革も行ってまいりました。

世界的なパンデミックとなったコロナ禍の中でも、佐賀県展だけは1回も休むことなく、74年という歴史を刻み続け、そして来年には、記念すべき第75回大会を迎えることとなります。

これも偏に、県民の皆様の温かいご支援とご協力はもちろん、全国的にも長い歴史を持つ佐賀美術協会や佐賀県陶芸協会、佐賀県書作家協会、佐賀県写真協会、佐賀県造形教育研究会等々の皆様方のご指導の賜物と、深く感謝申し上げます。

今年も審査員の先生方から「佐賀の芸術文化のレベルは高い」とお褒めをいただいた県民の皆様の傑作373点を展示紹介しています。

どうかごゆっくりご鑑賞いただき、芸術の秋のひと時をご堪能いただければ幸いです。

令和6年11月吉日

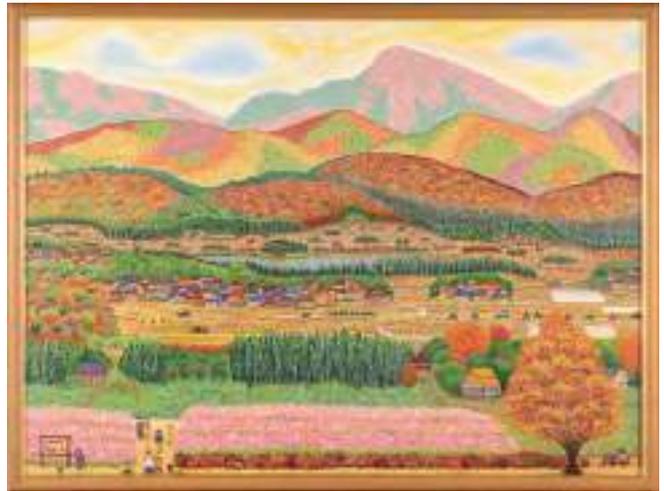
第74回佐賀県美術展覧会実行委員会

委員長 山崎 和也

— 佐賀県知事賞受賞作品 —



■日本画
生命体
江越 晶子 (佐賀市)



■洋画
南阿蘇のコスモスが咲く頃
松尾 千恵子 (佐賀市)

佐賀県美術展覧会大賞



■工芸
天目鉢 (雷)
野中 拓 (武雄市)



■書
西行の歌
百武 直子 (江北町)



■彫刻
線球
草場 龍介 (有田町)



■デザイン
希望を抱いて
渡辺 誉之 (唐津市)



■写真
金属との対話
渡辺 一祥 (小城市)

審査員及び審査評

第1部 日本画

なかむら ゆずる
中村 譲 Nakamura Yuzuru



1964年 香川県高松市生まれ
1989年 東京藝術大学美術学部絵画科日本画専攻卒業 サロン・ド・ブランタン賞
1991年 東京藝術大学大学院美術研究科絵画日本画専攻修了 修了制作大学買上げ
1994年 東京藝術大学大学院美術研究科後期博士課程絵画日本画専攻単位取得満期退学後、同大美術学部日本画研究室非常勤講師を2001年まで務める
同年、法務省「社会を明るくする運動」協賛「有芽の会」法務大臣賞受賞を皮切りに、再興第79回院展「犬吠の春」で初入選、以降、第50回春の院展「出航」初入選、東京藝術大学日本画研究室による国宝「源氏物語絵巻」模写参加（'99 '00）、第56回・第62回・第63回春の院展、再興第91回院展日本美術院賞（大観賞）受賞 等々、数々の賞を受賞。また、神戸そごうや高輪プリンスホテル、日本橋三越本店等で個展、グループ展を開催するなど積極的な制作活動を行っている
現在、日本美術院同人、尾道市立大学芸術文化学部長・美術学科日本画コース教授

■審査評

今年は全部で28点の応募がありました。大きさも様々で100号から10号のものまでで、技法的には揉み紙技法を使ったり絵具を盛上げて、効果的に表現されたもの、また水墨画もありました。ベテランの植物や風景を写實的に描いたものや抽象的な表現で自由な新しい感覚も見られ、時代的にも作風的にも幅広さを感じました。受賞作の審査は比較的迷わなかったのですが入落の判定は非常に難しかったです。皆さんしっかり描かれてあって、ある程度のレベルが保たれていて日頃の研鑽の成果が見受けられました。

知事賞を受賞された江越さんの作品は生命感あふれる木をモチーフとして、少し抽象的な表現にもなっており構図やフォルムが造形的にも美しい。全体的にはグレーの色調でまとまっているが、アイキャッチとなる植物には効果的に黄緑を配しているところが技巧的にも優れていると感じます。また佐賀新聞社賞を受賞された石橋さんの作品は、体験した事柄や見たものから「時間の経過」みたいな大きなテーマをご自身の中で決めて、それらを組み合わせながら抽象的な面白い表現をされています。また高尾さんの描かれた「満たされていくように」は白い世界の中に憂いのある人物を配し画面全体に雰囲気を感じさせます。人物の描写が優れていて安定感を感じさせます。もう少し画面が大きいとさらに良かったかなと感じました。ただこの点に関しては他にも何点か同様に感じさせる作品があり、制作スペースやコスト、また体力の問題で、なかなか難しい点ではありますが、公募展では規制の最大サイズで応募できるのは理想と言えるでしょう。

最後に、出品者の中には毎年応募されている方も多いかと思います。継続することは本当に難しく大変なことです。仲間と話したり展示会を観に行ったりしてモチベーションを保ち、今後もなるべく頑張ってお出し続けていただけたらと思います。

今回、僭越ながら審査をさせていただき大変刺激になりました。ありがとうございました。

(中村 譲)

第2部 洋画

もり かずひろ
森 一浩 Mori Kazuhiro



1949年、ブラジル・サンパウロ生まれ
1976年、東京芸大美術学部油画科卒業 同年、安宅賞・大橋賞を受賞し、また同大学院修士課程修了の際には、修了制作作品が芸大に買い上げられる。
1981年、同大学院後期博士課程単位取得満期退学
1990年、第1回風の芸術展大賞を皮切りに、様々な賞を受賞。
また、1995年の鹿児島市立美術館での個展を皮切りに、2000年には、Asia Art Now 2000ラスベガス美術館、2007年にはサンパウロ州立美術館個展、2010年にはSALVADOR ALLENDE（サンチアゴ・チリ）、2013には Museu Historico da Imigracao Japonesa no Brazil等々の展覧会に出品。
1996年から2023年まで、ブラジルサンパウロと日本を往復しながら制作活動をつづけ、現在も積極的に制作を行っている。

■審査評

学生時代に佐賀出身の同級生の地を訪れてから数十年。まさか、こんな形で佐賀県美術展覧会の審査を請け負うことになるとは……。県あげての大規模な展覧会に少々とまどいを感じるほどだった。昨年の資料等を拝見して74年もの歴史の中で成就した作品群、歴史の重さを感じた。

佐賀県知事賞の松尾千恵子氏の「南阿蘇のコスモスが咲く頃」は作者自身が感じた雄大な自然とのどかな風景を自身の中で楽しく歌い上げている。聴覚や視覚への刺激で得られる気持ちの良い反応や感覚を点描で描いている。見る側も一筆一筆に誘われる。

佐賀県議会議長賞の福島千賀子氏の「石畳の街 I」は街の一角に焦点を合わせての作者の心の動行が読みとれる。何ともコミカルな素朴な描写がのどかな心情を表している。上位、2点とも表現は違うが心が躍る画面になって心地良い。

佐賀美術協会賞の古川みどり氏の「象はどこから来てどこへ行くのか(I)」は、象を自身に見立てて現代社会を映す風刺画。現代社会が抱える明日への迷走、不安の中にも自分の空高くに掲げる太陽の存在。明日への希望に力を与えている様だ。白地の余白の空間がそれを助長している。

佐賀銀行文化財団賞の山津憲二氏の「晩秋」は地元の神社のイチョウ並木の丁寧な描写に目が注がれる。また、それらを取りまく空間の中で、人物の日常性が出ているところに好感がもてる。

佐賀新聞社賞の山田清文氏の「のどかな地元の風景」は日常風景の一コマを写し出している。普段見かける光線の中の1シーンを、水面に映る描写がのどかな心情を表している。

佐賀の歴史上の名だたる風物詩に困んだ画が多く、その意味を受けとめながらの審査になった。表現も多種多様。然えるような情熱を感じる作品が多い。それらは絵画が持つ力、画格と共に美しい絵、明日への希望に力を与えている様だ。

(森 一浩)

第3部 彫刻

せんぼんぎ なおゆき
千本木 直行 Sembongi Naoyuki



1967年 群馬県前橋市生まれ
1992年、筑波大学大学院修士課程芸術研究科修了
同年より、日本工学院八王子専門学校環境デザイン科教師
2000年、福岡教育大学助手 美術教育講座を経て、2012年から、福岡教育大学教授 美術教育講座
1998年、国展・彫刻部奨励賞受賞を皮切りに、2001年国民文化祭・実行委員会会長賞など数々の賞を受賞
また、東京工科大学モニュメント制作、宗像市平和祈念碑「空へ」などの制作を手掛ける
個展やグループ展なども積極的に開催し、Voice of Asia - 2016年には 国際 大学美術 / 書道交流展 in FUKUOKA -、2017年から現在に至るまで、福岡の別格本山鎮國寺においてセイミ展を開催するなど、積極的な制作活動を行うとともに、次代を担う若手芸術家の育成にも力を注いでいる

■審査評

この夏は異常な暑さが続き、実在を扱う彫刻の制作では大変な苦勞があったことでしょう。今回の審査では一点一点の作品を慎重に見させていただきました。彫刻というものは、木とか石とか金属とか、何か素材がなくてはできません。素材と表現方法が一致したときに空間にその存在感を意識させることを目的としています。自分の表現したいものを一番適当だと思う素材で、自分の心を語るからです。形は具象でも抽象でも、表現したいものを自信と誇りをもって、素材と対話しながらつくっていくことです。

県知事賞の「線球」(草場龍介さん)は、紙による立体表現で、制作意図が明確で軽やかな曲線と曲面がそれに伴った制作プロセスを想像させ新鮮な空間をつくっています。台座までこだわって見せ方を検討してもらえるとなお良かったです。

県教育委員会賞の「太古の記憶」(森正彦さん)は、鉄による巨大魚の骨格表現が面白く好感が持てました。

佐賀銀行文化財団賞の「乞い願わくは」(古川愛理さん)は猿のかたちを通して自分の心の在りかたを映しているようで対象を大切にみつめる観察が感じられ温かいです。

佐賀新聞社賞の「Reconstruction-2」(柴田暢也さん)は、紙粘土で網目状の造形を試みており、自身の着想をしっかりと形にしているところが魅力的です。

以上入賞作品4点のみの審査評となりましたが、他にも何とか形にまとめようと挑戦しつつも受賞に至ることができなかった作品がありました。受賞することが最終の目的ではありません、確たる答えの得難い彫刻の世界ですが、一人一人のリアリティを持った制作を続けていただきたいと思います。(千本木 直行)

第4部 工芸

おおつき のりこ
大槻 倫子 Otsuki Noriko



京都府生まれ
専門は日本近世陶磁史、工芸デザイン史。国内外のやきものを様々な角度からとらえた展覧会を企画。
主な展覧会に「北欧のスタイリッシュ・デザイン フィンランドのアラビア窯」(2005年)、公募展「マイヤー×信楽大賞 日本陶芸の今 - 伝統と革新」(2014年)「信楽への眼差し」(2015年)、「珠玉の湖東焼」(2016年)全て滋賀県立陶芸の森陶芸館にて開催)などがある。
また主な著書に、『窯別ガイド 信楽・伊賀』(淡交社)、分担執筆『終わり切れない近代 八木一夫とオブジェ焼』(美学出版)、『東京府のマボロシ 失われた文化、味わい、価値観の再発見』(社会評論社)などがある。
滋賀県立陶芸の森学芸員をへて令和2年4月より、愛知県陶磁美術館課長。



1965年 広島県生まれ。
1983年、大阪芸術大学芸術学部工芸科陶芸専攻卒業
1995年、国際美術大賞展にてフィレンツェ・モンテルポ国際親善賞受賞を皮切りに、第5回陶美展優秀賞、田部美術館大賞秀美賞・田部美術館長賞など、数々の賞を受賞
さらには海外でも活躍し、2018年には、台湾における「International Glory Ceramic Art Master`s Works in Taiwan Exhibition」にも参加。
2016年、日本現代工芸美術展審査員を務め、その後も、第10回陶美展、第9回日展、第120回有田国際陶磁器展などの審査員を歴任した。
2006年、紺綬褒章受章。
現在、日展会員・現代工芸美術家協会評議員・日本陶芸美術協会幹事

よしだ ゆきお
吉田 幸央 Yoshida Yukio



1960年、石川県生まれ
1985年、朝日陶芸展奨励賞受賞を皮切りに、伝統九谷焼工芸展大賞、高岡クラフト展金賞、国際色絵陶磁器コンペティション97九谷準大賞、国際陶芸ビエンナーレ99特別賞、使って見たい北の菓子器展大賞、第2回現代茶陶展 TOKI 織部銀賞、伝統九谷焼工芸展大賞、日本伝統工芸展高松宮記念賞、第57回石川の伝統工芸展金沢市長賞、第59回石川の伝統工芸展日本工芸会賞など、数々の賞を受賞。
また、第19回 MOA 岡田茂吉賞展（熱海市 MOA 美術館）をはじめ、Kogei2020 <The Art of Crafting Beauty from Nature>（東京国立博物館表慶館）、未来へつなぐ陶芸 - 伝統工芸のチカラ展（パナソニック汐留美術館・国立工芸館・その他）、深める・広げる伝統工芸展（日本橋三越）、日本伝工芸展60回記念「工芸から KOGEI へ」展（東京国立近代美術館工芸館）、2013年現代の日本工芸展（米国森上博物館）に出品。
現在、国立工芸館・石川県立美術館・小松市立博物館・茨城県陶芸美術館・宮内庁・インディアナポリス美術館・ヴィクトリア&アルバート博物館に Public Collection を持つ。
日本工芸会正会員・日本陶芸美術協会常任理事・石川県陶芸協会常任理事・石川県九谷焼保存会会員

■審査評

今回の応募作を審査会場で目の前にして、県展として作品のレベルが高いと感じたことをまずお伝えしたいと思います。これは佐賀という地が、江戸時代から陶磁器、織物などものづくりを奨励してきた歴史があり、県民の皆様が美術工芸を身近に感じ、優れた感性が育まれてきたことが背景にあるのではないかと思います。第74回の工芸部門は、陶磁器42点、染色18点、織13点、ガラス工芸2点、木工芸1点、革工芸1点の応募があり、入選57点、その内11点が入賞となりました。審査にあたっては、新鮮な発想で素材を活かしているか、かたちと装飾が調和しているか、画面配置は創造的であるか、高い技術に裏打ちされているか、を主眼におきました。入選作の中でも陶磁器は、佐賀県のつくり手の層の厚さがわかる優れた作品が揃っていました。また染色作品はベテラン勢にまじって若い世代の作品が多く出品されていたことが印象に残りました。

佐賀県知事賞に選ばれた「天目鉢（雷）」は、様々な技法を駆使し、黒の世界で表現された作品です。圏線を背景に勢いよくほとばしる一瞬、つまり「精巧と動」の世界が一つの器の中でせめぎ合いながらも調和している。器の隅々まで計算し尽くされ、制作されていることを感じる作品でした。

佐賀県議会議長賞の「紅花染着尺「春の輝」」は、美しく織られた格子模様と紅花の色彩が調和し、まさに春の輝きを思わせる作品。佐賀銀行文化財団賞の「雲遊ぶII」はロウケツ染による美しい色彩、そして空に浮かぶ白雲の大胆な構図と山裾の繊細な描写のコントラストが魅力でした。佐賀新聞社賞の「流-2024-」は、やわらかなフォルムと淡いブルーの流線が心地よい作品。釉の掛分けと染付により白磁の魅力が引き出されていました。佐賀県造形教育研究会賞の「透」は、染めによって布地に生み出されたマチエールが色彩と重なり合う創造的な表現。佐賀県陶芸協会賞の「白磁釉内彩鉢」は、イングレイズ技法と銀彩を駆使した点描文様がうつわのフォルムを際立たせている磁器ならではの表現。NHK 佐賀放送局賞の「佐賀錦短刀入」は金を効果的に使うことで、海の波の光をイメージした繊細な文様が冴えた佐賀錦の魅力が詰まった作品でした。今回の出品作は、佐賀県民の方々が自県の文化芸術を誇りに感じていただける作品ばかりであると思います。さらに新たな表現が佐賀から生まれることを祈念いたします。

（吉田幸央、西本直文、大槻倫子）

第5部 書

のだ まさゆき
野田 正行 Noda Masayuki



1953年、福岡県生まれ
日展会員
読売書法会常任理事
日本書芸院常務理事
日本の書展現代書壇代表
成田山 九州・沖縄総括主管
福岡県書美術協会正会員
正筆会副理事長
本年度（2024年度）日展審査員
読売書法展 審査進行

やまもと だいえつ
山本 大悦 Yamamoto Daietsu



1957年、大阪府生まれ。
昭和52(1977)年、小坂奇石先生に師事する。その後昭和53(1978)年から江口大象先生に師事し、以来42年間江口先生から指導を受けた。書歴は、平成20(2008)年・平成22(2010)年に日展特選を受賞。平成29(2017)年・令和3(2021)年に日展審査員を務める。2021年、初代会長の小坂奇石先生が設立した「璞社」の3代目として璞社会長に就任。現在、日展会員、日本書道文化協会会員、読売書法会常任理事、日本書芸院常務理事などを務めている。また璞社・書源社発行の書道研究誌「書源」の編集にも携わっている。

■審査評

歴史ある第74回佐賀県美術展覧会・書部門の審査をさせていただき誠に光栄に存じます。出品点数は128点の応募となり、昨年度と同数でした。

作品に対する取り組みの真剣な力作が多く、そのレベルの高さにこの美術展への思い入れの深さを感じるとともに、各人の強い美意識を持って創意工夫された作品は線も冴え、完成度も高く惹きつけられました。

審査の最終段階で序列を決定するには甲乙つけ難く、大変苦慮しましたが、入選・入賞を逃された方々の中にも見応えのある作品が含まれており、今後更なる精進へと繋げていただきたく思いました。

入選の内訳は漢字28点、かな14点、調和体6点、篆刻5点、少字9点、墨象3点でした。

良い作品を見落とさないよう二人で慎重の上にも慎重に、そして厳正に審査を進めて参りました。

入賞作品11点の内、第一席の佐賀県知事賞・西行の歌を題材にした百武直子さんのかな作品、二重紙の素紙という大変難しい紙に切れ味の良い線質で、構成も平凡な中にも中盤の盛り上げ方が自然ですばらしく練度の高い作でした。佐賀県教育委員会賞の原口真由美さんの漢字作品は、篆書体を素材としたもので、線の確かさに加え潤渇の表現がすばらしく、特に渴筆部分で線の強さが生まれ、立体感のある作品でした。また、佐賀県書作家協会賞の山口華雪さんの作品は、草書体を中心に構成されていますが、要の所で行書を入れ、文字の大小を効果的に組み合わせることで、見ていて心地よい、躍動感のある作品でした。佐賀銀行文化財団賞の一茶の句を配した小野原美穂さんの調和体作品は、十句を散らし書きにし、温か味のある線質でほのぼのとして心を和ませる佳作でした。

作家の皆さんは、書で人に感動を与えられるような作家活動を目標にし、またその作品を鑑賞される皆さんは書の魅力を感じとり、日本文化の「書」を支えてくださることを祈念します。

(野田 正行、山本 大悦)



1952年、東京深川生まれ。東京総合写真専門学校卒業。
1970年代より東京下町や湾岸の人と風景、日本の懐かしい町を撮り続けている。
1985年「河口の町」で第22回太陽賞受賞を皮切りに、第18回木村伊兵衛写真賞、江戸川区文化奨励賞、日本写真協会賞作家賞など数々の賞を受賞。
また、自主映画監督作品「小名木川物語」を公開するなど、多彩な方面で活躍している。
写真集・著書に「下町純情カメラ」、「遠い夏」、「wonderland」、「川の流れる町で」、「TOKYO EAST WAVES」などがあり、個展、企画展も多数開催している。
東京造形大学、武蔵野美術大学、大阪芸術大学などで非常勤講師、客員教授を歴任。
作品収蔵は東京都写真美術館、川崎市民ミュージアム、日本カメラ財団(JCII)、フランス国立図書館ほか。
現在、日本写真家協会会員、日本写真協会会員、ニッコールクラブシニアアドバイザー。全日写連関東本部委員。日本写真協会表彰委員。

■審査評

県展審査を担当させていただくのは今回が三回目となりました。スタッフのみなさんの手際の良い進行で、以前よりそれほど時間もかからず入選作までは順調に決まりました。

全体の応募総数が若干減ったことも少なからず影響したかもしれません。

コロナ禍を経て、再び写真愛好家のみなさんがこぞって町や村に出かけシャッターを押すようになったことは喜ばしいことですが、いつの間にか、世の中には「生成AI」という摩訶不思議な「方法」が入り込み、写真表現にも脅威を与える存在になってきています。

「写真は現場に立ち被写体と向かい合う」ということが当たり前ではなくなる日が来るかも知れぬ不安を抱えながらも、県展写真の部のように、みなさんの郷土を写した率直な作品を拝見しますと私も勇気をもらえます。

しかしながら、題材として定番であるものが目立ち、それぞれ安心しきってしまっている印象が強いです。題材のみならず、応募点数の少ない「組写真」にも挑戦していただきたいですし、レンズの描写力を積極的に活かしていただく作品がもっとあってもよいでしょう。

県知事賞の「金属との対話」は、まさにその描写力を発揮した作品。一見すると暗い画面がかなりの割合で占めていますが、写真の前に立ちますと、作業する人の輪郭とその集中する手元の光などがくっきり見えてきます。

さらに作業服や手袋などの色合いと質感が浮かび上がってきます。まさに王道ともいえる写真の視覚的特性が全て盛り込まれていることに気づきます。「金属との対話」は「写真との対話」ともいえましょう。

県議会議長賞の「命を継ぐ」は昆虫の生態を撮るといった領域を越えていく「命」の問題に真っ向から立ち会った作品。そこに作者の心の眼があるからでしょう。

県写真協会賞の「雪遊び」は、会心の笑顔が美しく、白い雪に負けない無垢で根源としての喜びを感じさせてくれます。現場でのささやかな感動がスナップショットを決定するもの。また芸術文化協会賞の二点は、近年、写真が美術作品の領域で語られるように表現の可能性を広げてくれます。入選作全般もカメラが無理なく日常の営みの中に自然に入り込み、時代の記憶、郷土の生活誌となっていることを伝えています。来年はさらに多くの方々のご応募に期待します。

(大西 みつぐ)

第7部 デザイン

かわち ともき
河地 知木 Kawachi Tomoki



1944年京都市生まれ
1967 佐賀大学教育学部特別美術工芸課程、構成卒
二科会デザイン部に1965より毎年出品(奨励賞・特選賞・会友賞・会員賞
等複数回受賞)
海の中道マリンワールド開園時サイン研究、玄海町新設小中学校S・I計画、
秋月地区サイン計画、福岡市美術館、多久市史跡案内図、有田町内サイン計
画、福岡市市営地下鉄サイン計画等に從事
また、SDA賞受賞、1984イタリアファエンツァ市デザインコンペ部門賞
及びグランプリなど、数々の賞を受賞
個展も活発に開催し、九州の13人展、ニューヨークアートディレクターズ
クラブギャラリー他がある
九州大学工学部、九州芸術工科大学、韓国蔚山大学等々の非常勤講師を務
める
現在、九州産業大学名誉教授

■審査評

デザインとはいえ、作品は個人的なオリジナル作品応募を対象にしている。これらは日本特有の「デザイン展」であるらしい。本展の場合はデザイン募集としているため平面と立体2様の出品があり総数198点であった。したがってポスター作品の分野も観光、動物愛護、環境、非温暖化、詐欺防止、スポーツとさまざまである。入選は73点、内数で入賞は15点になった。全体的な印象はタイポグラフィックの意識が高まればキリッとした良い作品になるとおもわれるものが多々見られた。知事賞の緻密なイラストレーションは秀逸であった。さらに中の1点を面全体に描いても充分良い作品になると思われた。教育委員会賞(牧瀬奈緒)は紙面の構成が余白が活かされた構成で気持ちがよかった。佐賀銀行文化財団賞(宮崎碧)は大胆な構成にモノクロームの色使いが逆にマッチしている。佐賀新聞社賞(川本竜一)もまた白黒の割合もよく中に青い海が感じられ構成がうつくしかった。あと読売新聞西部本社賞も(米倉璃音)ユニークな取り組みであった。

第75回出品者にとっては来年がもう始まっています。今日からさっそく次回の作品制作に取り組もう。デザインは描くより考えて作る、です。

(河地 知木)

入選及び入賞作品一覧

(入選及び入賞作品の作者のお名前、作品名について
一部常用漢字での表記とさせていただいている場合があります)

第1部 日本画

番号	賞名	作品名	氏名	住所
5	入選	炎帝	石崎 吉枝	武雄市
7	佐賀銀行文化財団賞	オリバー君の忘れ物	齋藤クラエ	武雄市
8	入選	好日	吉田 節子	佐賀市
9	入選	路面電車が行く	荒木 正次	佐賀市
10	入選	ARITA	川原 英子	嬉野市
11	入選	本音	坂井美華子	佐賀市
12	入選	春音	東 義春	大町町
14	入選	赤く燃ゆる	野口亜希子	佐賀市
15	入選	いのり (ナポリ:ジェズ・ヌオーヴォ協会)	田中 和久	伊万里市
16	入選	色づく	萩原 愛子	佐賀市
18	入選	境界～宵の花 (左)	佐藤 晴一	吉野ヶ里町
19	入選	老いても伸びる川古大楠	小柳 義則	武雄市
21	佐賀県知事賞	生命体	江越 晶子	佐賀市
23	佐賀新聞社賞	リスク	石橋 朋子	武雄市
24	入選	満たされていくように	高尾 爽菜	東京都
25	入選	京鹿子娘道成寺	山口三枝子	佐賀市
26	読売新聞西部本社賞	勢	下村 康二	神埼市
27	佐賀県教育委員会賞	眠りを編む人	井添 将仁	佐賀市
28	入選	幻像	高祖 幹子	江北町

第2部 洋画

番号	賞名	作品名	氏名	住所
2	入選	都会の谷間風II	坂口 文子	佐賀市
3	佐賀美術協会賞	象はどこから来てどこへ行くのか (I)	古川みどり	佐賀市
5	佐賀県議会議長賞	石畳の街 (I)	福島千賀子	小城市
8	入選	平和	菊池 満子	佐賀市
11	入選	歲月	岩永 一	鹿島市
14	入選	まちかど・ときめき	古瀬 博	唐津市
15	入選	最後は無	森 弓子	吉野ヶ里町
18	入選	残像II	三好 道子	佐賀市
21	入選	生命の讃歌	井上 良子	唐津市

23	入	選	夢のなか	岡本 保子	佐賀市
24	入	選	鳥になったドンゴロス (I)	栗山 利博	佐賀市
26	入	選	キョウセイ	聖	大分市
28	入	選	倉庫と罐	犬山 英雄	伊万里市
29	小 城 市 長	賞	Wish	黒川 種華	大町町
34	入	選	大威徳明王	牛丸 和人	多久市
36	入	選	逆光	東島 俊二	小城市
38	入	選	断捨離・AI。	山崎 正之	佐賀市
41	入	選	黙示の光景	小倉歌代子	佐賀市
43	入	選	ツユクサ	古賀 悦子	佐賀市
47	入	選	初雪	材木 定	佐賀市
50	佐賀銀行文化財団	賞	晩秋	山津 憲二	みやき町
51	入	選	秋麗	池田 俊郎	小城市
57	佐賀県知事	賞	南阿蘇のコスモスが咲く頃	松尾千恵子	佐賀市
61	佐賀新聞社	賞	のどかな地元の風景	山田 清文	神崎市
62	佐賀県芸術文化協会	賞	Parasite	中尾 心	佐賀市
63	入	選	私を見てください	馬場さつき	佐賀市
64	入	選	ゆめうつつ	熊本 鈴	唐津市
67	入	選	クリップの整列	横尾 勝博	神崎市
70	佐賀県芸術文化協会	賞	カオスⅢ	多々良清弘	鳥栖市
74	入	選	余情	野口みね子	佐賀市
75	入	選	至福のひとつき	金田 智彦	唐津市
76	入	選	若者	野田 登司	佐賀市
77	N B C ラ ジ オ	賞	田んぼの神さま	江口 利道	佐賀市
78	入	選	辿り着けない	海津 知子	唐津市
80	入	選	魚になれたら	林田日菜子	白石町
81	入	選	たまねぎ	中島 雄次	佐賀市
82	入	選	青いマーメイド	蒼井 凜	佐賀市
83	N H K 佐賀放送局長	賞	晩秋	牧野 正晴	伊万里市
86	入	選	いかずち	岡田 勝己	唐津市
88	入	選	ピンとりんご	生方 和彦	嬉野市
89	入	選	生きる力	太田源之介	佐賀市
91	入	選	remembrance	古野 陵子	佐賀市
92	入	選	学校を見守る御神木	渡邊 潔	佐賀市

94	入	選	想いの他か	吉富 文代	伊万里市
95	入	選	ドライブフラワーII	岩田美美子	唐津市
98	入	選	深山の螢	宮崎 武徳	太良町
99	入	選	故郷の時間	神代 利勝	佐賀市
100	入	選	この悲しみに…	円田 洋子	伊万里市
106	入	選	想い重ねて	高津 静子	佐賀市
108	入	選	地動説	稲毛 健蔵	唐津市
109	入	選	Debutante	中野 緑	佐賀市
116	入	選	陽鹿	古賀 零始	吉野ヶ里町
118	入	選	白い花	山田美智子	佐賀市
119	入	選	鳥望	梶山 敦巨	神埼市
120	入	選	よみがえる干潟	久原 憲幸	佐賀市
121	入	選	英気充填	谷口えい子	佐賀市
124	入	選	五島憧憬	青木 孝安	武雄市
129	入	選	シンガーソングライター	衛藤 拡典	上峰町
130	入	選	記憶の痕跡 2024	中村 誠一	神埼市
131	入	選	あやふや	宇 佐 美	武雄市

第3部 彫 刻

番号	賞 名	作 品 名	氏 名	住 所
1	佐賀銀行文化財団賞	乞い願わくは	古川 愛理	佐賀市
2	入	選 しずくのゆくえ～宙へ～	野田 和弘	嬉野市
3	入	選 一歩 一歩	小石 史恵	小城市
5	佐賀新聞社賞	Reconstruction-2	柴田 暢也	佐賀市
7	佐賀県知事賞	線球	草場 龍介	有田町
8	入	選 金婚式	小松 光陰	唐津市
9	入	選 たぬき	檜崎由依子	唐津市
10	入	選 一服	小野 義一	有田町
12	佐賀県教育委員会賞	太古の記憶	森 正彦	佐賀市
13	入	選 黒いさそり	坂本 直則	佐賀市
16	入	選 届けたい想い、届かぬ思い	松雪 亮子	鳥栖市

第4部

工 芸

番号	賞 名	作 品 名	氏 名	住 所
1	入 選	冬枯れの庭に	太田 京子	みやき町
2	入 選	令和6「暖流」	大宅 利秋	武雄市
3	佐賀県芸術文化協会賞	毘沙門天立像	財 俊彦	佐賀市
4	神 埼 市 長 賞	翔ける	寺崎 康子	みやき町
5	入 選	彩雲	石田由美子	基山町
6	入 選	木綿 段通「蟹牡丹文1」	酒井みなみ	佐賀市
7	佐賀銀行文化財団賞	雲 遊ぶ II	渡邊 成樹	武雄市
8	入 選	氷青磁鉢	青木 昌勝	伊万里市
9	入 選	儂い美	宮崎 一期	武雄市
10	入 選	サマルカンドブルー	山口 浩子	有田町
11	入 選	天目線文彫壺	澤山 大亮	有田町
12	入 選	風薫る花野（木綿草木染着物）	山口 桂子	白石町
13	入 選	虚光	渡辺 結南	佐賀市
16	入 選	彩	山本 凜音	福岡市
19	佐賀県造形教育研究会賞	透	津村 光璃	佐賀市
20	入 選	白磁彫文大鉢	加納 光正	有田町
22	入 選	艶釉彩深鉢「潮」	松尾 勝也	有田町
23	入 選	佐賀錦「碧海」	古川 文子	佐賀市
24	入 選	『摩天楼』	植木 薫	多久市
25	N H K 佐賀放送局長賞	佐賀錦短刀入	川島加代子	佐賀市
26	入 選	梅雨晴れ間	西村 尚子	佐賀市
29	佐賀県芸術文化協会賞	儂さ	大隈 瑠	多久市
31	入 選	思いがけない空白 - IV	田中 忍	嬉野市
32	入 選	鳳凰龍耳付泰山木文	田中 拓馬	有田町
33	入 選	青白磁剣銀杏紋鉢	吉原 優	伊万里市
34	入 選	積木づくり木口模様の杉箱（木もれ日）	峰松 直樹	嬉野市
35	入 選	結び亀甲文 長壺	花田 和彦	有田町
37	県展大賞・佐賀県知事賞	天目鉢（雷）	野中 拓	武雄市
38	入 選	白磁矢絰紋花器	野中 拓	武雄市
39	入 選	秋海棠	山口けい子	太良町
41	入 選	メグリツナグ	志戸 朋子	鳥栖市
42	入 選	くまんばち	山口 弘子	神埼市
43	鹿 島 市 長 賞	釉象嵌花器	中尾 純	有田町
46	入 選	尺八袋	福島喜代子	江北町

47	入	選	銹地輪花鉢	奥川真以子	有田町
50	入	選	好奇心	岡部美智子	有田町
51	入	選	色絵雪花薄墨墨はじき雪文鉢	今泉今右衛門	有田町
52	入	選	連作 烈 嘆きの壁	嶋田 敏生	有田町
53	入	選	杜の音 (真手野舞浮立)	浦郷 京公	武雄市
54	入	選	麦熟るる	小田三津江	伊万里市
55	佐賀新聞社	賞	流-2024-	浦郷 壮	武雄市
56	入	選	唐津茶盃	安永 頼山	唐津市
57	入	選	しじら織 楽しみな夏	竹内 小枝	武雄市
59	入	選	燦花～時～	嵩 浩子	鳥栖市
60	入	選	鹿島錦掛額 (芦原のさゝやき)	相浦 幸子	鹿島市
61	佐賀県議会議長	賞	紅花染着尺「春の輝」	村上ふみ子	佐賀市
62	入	選	木綿草木染着物「夏衣」	多久島直美	武雄市
63	入	選	和紙染野葡萄文鉢	勝田 慎	神崎市
64	入	選	搔落和紙染椿文蓋物	勝田 文博	神崎市
65	入	選	桜 磁花鉢	大林 吉幸	伊万里市
66	入	選	干潟	打越 一彦	唐津市
69	入	選	あれなーに	生島 悦子	佐賀市
71	入	選	鯉踊龍門	山下 友裕	伊万里市
74	入	選	月影	和田隆之介	有田町
75	佐賀県陶芸協会	賞	白磁釉内彩鉢	赤塚 幸恵	武雄市
76	入	選	白磁緑青海波文六角面取花器	井上 萬二	有田町
78	入	選	白妙彩磁壺	庄村 久喜	有田町

第5部 書

番号	賞名	作品名	氏名	住所
1	入	選	小倉百人一首	小林 和子 鳥栖市
2	佐賀県知事	賞	西行の歌	百武 直子 江北町
3	入	選	桜花	廣瀧 喬泉 神崎市
6	入	選	徳	松尾 恵子 太良町
7	入	選	愛	北村美弥子 太良町
9	入	選	沈道映の詩	小川 智泉 鹿島市
11	入	選	王中詩	草場 佳泉 武雄市
14	入	選	滁州西澗	池田 洋舟 武雄市
17	佐賀県書作家協会	賞	漢詩	山口 華雪 武雄市
21	佐賀県商工会議所連合会	賞	百人一首の歌	下村みゆき 佐賀市

22	入	選	百人一首のうた	宮崎 秀子	唐津市
23	入	選	江天無少異	野中 実穂	佐賀市
24	入	選	今夕	坂田 美鳳	佐賀市
27	佐賀県芸術文化協会賞		游魚出聴	池田 蘆翠	唐津市
31	佐賀県教育委員会賞		野の池	原口真由美	唐津市
32	入	選	春日山	徳久 泰苑	佐賀市
35	入	選	時雨	右寺 佳代	佐賀市
37	入	選	良寛の詩	西久保翠光	多久市
38	佐賀新聞社賞		おしなべて	執行 恭子	佐賀市
40	入	選	あしひきの	荒木都規子	太良町
45	入	選	響	吉村 翼	唐津市
47	入	選	自然法爾	野中 紫光	伊万里市
48	入	選	故郷の空	倉谷 美代	佐賀市
50	入	選	李白詩	末永 純子	みやき町
54	入	選	飛 大空へ	内藤 春華	佐賀市
56	入	選	緩急	眞崎 惠泉	佐賀市
57	佐賀県芸術文化協会賞		掌	立川 景子	佐賀市
58	入	選	弾	吉次 雪子	佐賀市
60	入	選	湖	坂口 正法	佐賀市
61	入	選	駕	江島 稲香	佐賀市
62	入	選	感	荒木 晴美	佐賀市
63	入	選	月夜與客飲杏花下	鐘ヶ江麗雪	武雄市
64	入	選	韓愈詩	田中 愛理	有田町
67	入	選	千家元麿の詩	徳廣 彩圭	佐賀市
69	入	選	四季の歌	古閑 由紀	小城市
70	入	選	翔龍舞鳳	田中万沙代	佐賀市
71	入	選	歐陽詹詩	山本 聖雪	佐賀市
72	佐賀銀行文化財団賞		一茶の句	小野原美穂	鹿島市
73	入	選	「山家集」より	藤木 香江	鳥栖市
75	嬉野市長賞		韓愈詩	正寶 直美	佐賀市
77	入	選	観音経	立石 満月	佐賀市
78	佐賀県芸術文化協会賞		和歌四首	山口 芳林	佐賀市
83	入	選	王維詩	木下 紫陽	佐賀市
84	入	選	王維詩	小宮 昂大	唐津市
86	入	選	杜甫詩	太田 馨楓	佐賀市
88	入	選	馮夢禎の詩	御厨 惠光	佐賀市

91	入	選	金声玉振	内川 畦游	佐賀市
94	入	選	妙音萬里	角田 隆宣	多久市
95	朝日新聞社	賞	蘇東坡詩	倉成 裕子	基山町
97	入	選	木の間の月	山口 越周	佐賀市
98	入	選	張蠙詩	木原 華雪	佐賀市
99	入	選	石川啄木の歌	北村 清子	佐賀市
100	入	選	百人一首	島 誘 里	佐賀市
101	入	選	夏の終わり	横田 春涛	佐賀市
102	入	選	陶淵明の詩	中嶋 寿香	佐賀市
103	入	選	僧靈一詩	山中 華月	佐賀市
104	入	選	碧荷は幽泉に生じ	三村かほる	佐賀市
108	入	選	施閏章詩	永渕 美峰	鳥栖市
112	入	選	与謝野晶子詩「君死にたまふこと勿れ」	志波 梧楠	佐賀市
113	入	選	蒼海の詩	平野 寛子	みやき町
117	入	選	千載一遇	副島 瑞泉	小城市
120	入	選	『踊躍』『踊』による	熊谷 粹泉	みやき町
121	入	選	管訥詩	小野 慧華	多久市
122	入	選	肇	古賀 訟子	伊万里市
127	入	選	努力愛春華	井上 定男	基山町

第6部 写真

番号	賞名	作品名	氏名	住所	
1	入	選	春のひととき	宮崎 静雄	嬉野市
4	入	選	冬の海中道路	三原 民子	太良町
5	入	選	早朝ツーリング	福市 誠吾	鹿島市
6	佐賀銀行文化財団	賞	2秒の間	百田 淳一	太良町
7	武雄市長	賞	黄昏時	松浦妃呂子	鹿島市
8	入	選	夕暮の光	久原ひとみ	鹿島市
9	佐賀新聞社	賞	祈り	井上 學	佐賀市
10	入	選	もののけ	堀田信一郎	小城市
13	入	選	僕のペット	北古賀正昭	佐賀市
15	入	選	ナイトウォークの幻想	村上 浩紀	小城市
16	入	選	棚田の里	松本 陽一	小城市
17	入	選	静寂の故郷	田島 邦宏	小城市

18	入	選	跡継ぎできた	田島 敏子	小 城 市
19	入	選	童心	水田 恵子	小 城 市
20	入	選	早朝の出港	武富 信義	佐 賀 市
22	入	選	女神にチュッ!	山口 浩敏	伊万里市
25	入	選	出番待ちで～す	今村 亘	唐 津 市
26	入	選	ねぐら	田代 義博	江 北 町
28	入	選	黄葉ふりつむ	久保山 肇	基 山 町
31	入	選	漁港の休日	森田由佐子	鹿 島 市
33	入	選	勇壮	森田 正文	鹿 島 市
34	入	選	未来へジャンプ	岩永 利雄	鹿 島 市
35	入	選	門出	大隈美代子	鹿 島 市
36	入	選	サンタのいる家族	相川 浩司	小 城 市
37	入	選	五色の輪	宮原 信隆	小 城 市
38	入	選	伝統の継承	富永 優	嬉 野 市
40	入	選	いただきます	脇部 秀彦	小 城 市
41	入	選	お先まつ黒	武富 秀俊	佐 賀 市
42	佐賀県芸術文化協会賞		彷徨う	小林恵美子	小 城 市
43	入	選	蘇る大楠	秋吉 実	嬉 野 市
44	入	選	こんにちは ようこそ	森山 幸子	小 城 市
45	入	選	雨上がりの脚光	米倉 悠真	佐 賀 市
47	入	選	始まりの朝	北村 輝義	佐 賀 市
48	入	選	潮騒	吉田 邦起	唐 津 市
50	入	選	ふるさと五月のころ	伊東 靖洋	小 城 市
51	入	選	夏の想いを閉じ込めて	江口 忠宏	小 城 市
52	入	選	Happy Birthday	鍵山 浩明	佐 賀 市
54	入	選	一軒の店	宮崎多賀子	唐 津 市
55	入	選	時をかける少女	重村雄一郎	有 田 町
56	入	選	明日に翔る	執行 晶子	鳥 栖 市
58	入	選	冬木立	向井 準	吉野ヶ里町
61	入	選	霧中な散歩	田中 明	佐 賀 市
64	入	選	伝統勇壮の曳山 (やま)	原 利男	伊万里市
65	入	選	華の航空ショウ	市川 鶴雄	伊万里市
66	入	選	里の秋	渡邊 克彦	唐 津 市
68	佐賀県写真協会賞		雪遊び	太田 昭信	佐 賀 市

69	N B C ラジ オ 賞	がんばれ日本!	花房 和彦	佐賀市
70	入	選 流れ	加茂 文孝	佐賀市
72	入	選 もっと先へ	大草 重幸	唐津市
304	入	選 人間むつごろう	峰松 正昭	鹿島市
305	入	選 歓喜の雄叫び	高島 建夫	鹿島市
308	入	選 春の隣	佐々木京子	伊万里市
310	入	選 桜の下の倅せ	石崎 満	武雄市
311	入	選 仲良し一年生	佐々木弘紀	佐賀市
313	佐賀市長賞	親子3代	末永 吉勝	佐賀市
317	入	選 標高2600メートル	小野原憲次	鹿島市
324	佐賀県商工会議所連合会賞	夕暮の一瞬	柴田 洋	小城市
328	入	選 野焼に挑む	藤田 和義	佐賀市
330	入	選 念仏の夜	辻 清原	唐津市
331	入	選 神馬の洗礼	杉谷 正昭	佐賀市
333	入	選 芸術の秋	江口美千代	佐賀市
337	入	選 月光に浮かぶ立神岩	柳木 繁弘	佐賀市
340	入	選 海	大塚 稔	唐津市
341	入	選 祭りの主役	山田 力	多久市
345	入	選 村のまつり	御厨 正孝	小城市
348	入	選 凧 Stop the wind	立石 覚	佐賀市
350	入	選 懐かしさに誘われて	山下 友文	武雄市
353	入	選 3兄弟	坂本 景	佐賀市
355	入	選 ほのぼの家族	深川 義光	小城市
358	入	選 名工	岡 康和	みやき町
364	佐賀県知事賞	金属との対話	渡邊 一祥	小城市
365	入	選 暁雲の鏡景	片渕 勇治	白石町
370	サガテレビ賞	祭りの後の一服	森 博茂	小城市
372	唐津市長賞	タカ匠と少年	内田真一郎	唐津市
378	入	選 休息	大櫛ゆうすけ	鳥栖市
388	入	選 -Break time- それぞれの時間	木下 智博	佐賀市
397	入	選 お花見列車	金山 公子	佐賀市
402	入	選 祭の終り	田川 浩	唐津市
405	入	選 お犬様のひなまつり	石橋 弘志	みやき町
410	入	選 春うらら	菅 正道	佐賀市

411	入	選	あちゃー	梁井 達朗	佐賀市
417	佐賀県芸術文化協会賞		鉄塔映る	福井 繁	上峰町
420	入	選	懺悔の炎～お水取り～	大塚 長幸	佐賀市
421	入	選	ポッチの湯	吉岡 啓一	伊万里市
423	佐賀県議会議長賞		命を継ぐ	久保 敏昭	伊万里市
425	入	選	冬の楠久川風物詩	久保 娃子	伊万里市
435	入	選	朝のルーティン	廣木 昭則	佐賀市
438	入	選	神馬一体	石井 一征	佐賀市

第7部 デザイン

番号	賞名	作品名	氏名	住所	
1	佐賀県芸術文化協会賞	私	末吉 佑芽	神埼市	
16	入	選	私の人生	森 結菜	神埼市
24	入	選	増えたごみの行方	藤木瑚乃実	神埼市
27	入	選	罨かも	和泉 結菜	神埼市
29	鳥栖市長賞		センザンコウ保護活動ポスター	平尾 寧音	佐賀市
32	入	選	GO MY WAY	副島こころ	鳥栖市
33	入	選	れんこん革命	照井 結衣	有田町
36	入	選	泳ぎにくいなあ！	北村 颯汰	佐賀市
41	入	選	見たい世界	百瀬 瑞希	唐津市
43	佐賀県芸術文化協会賞		緑は自然の財宝	金子京太郎	佐賀市
44	入	選	地球温暖化	古賀 敬将	佐賀市
45	入	選	拡散希望	島添 瑞生	佐賀市
46	入	選	大丈夫	鈴山奈津美	佐賀市
47	入	選	温暖化の影響	中村 瑠晟	佐賀市
49	入	選	妖怪漂流記	南里 咲良	佐賀市
50	入	選	どちらに住みたいです？	仁田原寿成	佐賀市
52	入	選	悪口を増やすな	宮崎 優希	佐賀市
54	入	選	STOP！ 環境破壊	吉田 美咲	佐賀市

57	入	選	鯛	井上 茉里	佐賀市
58	入	選	もう限界だよ。	上鶴 真都	佐賀市
60	入	選	イエロードッグプロジェクト	久間 春菜	佐賀市
69	入	選	佐賀を彩る。	松永 爽汰	佐賀市
71	入	選	デザイン&アイデアが集まる展覧会	渡邊 諒人	佐賀市
74	入	選	桜門	織田 綾華	武雄市
78	入	選	器の町 有田	多久島愛音	有田町
79	入	選	黒髪山植物保全ポスター	廣瀬 咲姫	武雄市
80	入	選	有田焼カレー PR ポスター	吉島 多恵	有田町
85	入	選	SNS	古川 侑佳	佐賀市
109	入	選	Dai, andiamo	篠崎 周二	鳥栖市
114	入	選	伝統を受け継ぐ	斉藤 凜	久留米市
115	入	選	黒髪神社の流鏝馬	浦郷 蔵斗	武雄市
116	入	選	山内町 PR ポスター	浦郷 宝斗	武雄市
118	入	選	三川内焼ー濃みと白	船原 海煌	佐世保市
120	佐賀県知事賞	賞	希望を抱いて	渡辺 誉之	唐津市
121	佐賀県教育委員会賞	賞	さがものがたり	牧瀬 奈緒	伊万里市
122	入	選	志気の大シャクナゲ	川添 友依	唐津市
126	入	選	音楽環章	成富 琳久	神崎市
129	入	選	九夏三伏	横尾 拓海	佐賀市
130	入	選	Stop the 海洋投棄！！	山田 惲乃	武雄市
132	サガテレビ賞	賞	what will I dream about tonight ?	山口 天音	鹿島市
134	伊万里市長賞	賞	僕の夏休み	三島 綾香	佐賀市
136	入	選	四角	真崎 烈	小城市
137	入	選	たくさんの花	福光 海斗	佐賀市
139	入	選	arabesque	徳永沙耶花	佐賀市
143	入	選	この笑顔に会いに来た	山口 恵実	佐賀市
144	入	選	いちごさん	江原 未来	佐賀市
146	入	選	ワクワクする楽しさが走り出す	與賀田博史	白石町
147	入	選	止めよう、温暖化	與賀田博史	白石町
149	入	選	Scorpion (サソリ)	永田 力	佐賀市
151	入	選	環境保全ポスター	枝吉翔太郎	唐津市

153	読売新聞西部本社賞	全国辞典協会ポスター	米倉 璃音	唐津市
154	佐賀銀行文化財団賞	唐津観光ポスター	宮崎 碧	唐津市
155	佐賀新聞社賞	土谷棚田の夜景	川本 竜一	松浦市
157	入	選 「夜螢（やけい）見に行かん？」	一番合戦彰雅	嬉野市
159	入	選 no more war	佐藤 晴一	吉野ヶ里町
160	入	選 一沈む猛威と生命一	佐藤 瑛太	吉野ヶ里町
161	入	選 I can't stop my adomiration !	宗 隼人	武雄市
163	N H K 佐賀放送局長賞	案山子「A」	千綿 詔子	佐賀市
164	入	選 トンテントンのオチ	石橋 由菜	伊万里市
167	入	選 ちゃんと有田	助川 愛清	有田町
169	入	選 おいしいもんで溢れてん	野元 咲希	佐世保市
172	多久市長賞	佐賀県PRポスター	池上千代香	江北町
174	入	選 まほうのあめこうじょう	近藤 夏海	武雄市
176	入	選 一緒ニ遊ボウヨ	杉本 悠樺	嬉野市
177	佐賀県芸術文化協会賞	海は元気①	瀏野 博巳	嬉野市
183	入	選 現代整形美人七変化	瀧口 公子	有田町
184	佐賀県芸術文化協会賞	殺処分0の願い	内川由紀子	佐賀市
185	入	選 東山代町の音	山口 優里	伊万里市
188	入	選 想い	下村 康二	神埼市
189	佐賀県芸術文化協会賞	アメリカンな食べっぷり	松尾 侑恭	佐世保市
192	入	選 伝統の町 波佐見町	山田 李輝	波佐見町
193	入	選 危険、闇バイト	伊東 洋	小城市
197	入	選 飽和	片岡 奈美	伊万里市

県展ポスター採用の感想

佐賀県立有田工業高等学校デザイン科 近藤 夏海さん

私は積み木をモチーフにして、図形をベースに全体の構成を考えました。県展について、これまでの努力や、アイデアが積み上げられたものが、色々な形になって展示される展覧会ということを考えました。沢山の人が県展に足を運んで欲しいと考え、ポスターを見た人が気軽に「行ってみたいかも」と思えるように全体的にポップなデザインにしました。また、11月に開催されるので秋を連想するような暖色で統一しました。県展の落ち着いた雰囲気が伝わるように背景の明度を少し落としました。





画材・額縁・美術教材

つなべ画材店

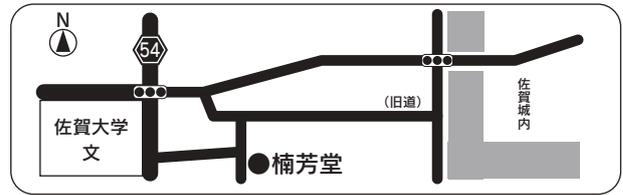
〒840-0042 佐賀市赤松町3-30
TEL/FAX 0952-29-6817

県内唯一

書道用品専門



佐賀県佐賀市赤松町10-5
TEL/FAX:0952-25-1555



尺八演奏家

藤原道山

25th Anniversary Concert 選
ピアノ: Keiko

2025年

3月29日(土) 14:00

佐賀県立美術館ホール
全席指定: 5,800円(税込)



お問い合わせ

TEL: 0952-26-2361

■諸官庁御用達■

記念品、贈答品の専門店

大正八年創業

大丸進物店

佐賀市柳町2-15 (旧服元町バス停裏側)

TEL (23) 4226 FAX (22) 0130

デザインなどします。



合同会社 oh オオノヤ / 大園 雄司

〒840-0042 佐賀市多良油1丁目8-5

iphone: 090-3071-4285 mail: 3po@oobeyuji.com

一般の撮影から商業フォトまで

モモタフォト

百田 淳一

藤津郡太良町大字多良油津1573-1

TEL 0954(67)2322

FAX 0954(67)2039

額縁・美術材料・美術教室

キヨカワ文画堂

代表 岸川正道

久留米市生涯学習センター・アトリエKK講師

佐賀工業高校バス停前

〒840-0841

佐賀市緑小路3番7号

TEL/(0952)23-6920 FAX/(0952)60-6920

携帯 090-1970-3113

田村公認会計士事務所

佐賀市新栄西1-2-4 1

TEL 0952-29-2141

FAX 0952-29-2149

E-mail: tamurakaikei@saga.email.ne.jp

掛軸・額装・古巻肉修復
岸道展川貸物

※ 別館

光彩堂

佐賀市材木2丁目9-27

TEL 0952 23 5230

http://nttbi.ne.jp/0952255230/

梧竹・蒼海から未来へ

佐賀県書作家協会

中島行政書士事務所

佐賀市大和町久池井1701-11

TEL:0952-60-2614

Mail:nakashima.office@uma.bbiq.jp

100th
ANNIVERSARY

さあ 排もう つくろう かえていこう

 株式会社 戸上電機製作所



—MEMO—

